

やってみよう！石灰乳塗布

2019年7月12日

子牛を守る石灰乳塗布

子牛の下痢・肺炎予防では『初乳給与』と病原体と接触させない『衛生管理』の二つが重要です。今回は石灰乳塗布による衛生対策についてご紹介します。

どんな効果がある？

石灰乳は強アルカリ性による幅広い消毒効果と、塗布面の病原体の封じ込めが期待できます。環境中の湿度を抑え、肺炎予防効果も期待できます。

ドロマイト石灰を使おう

石灰にはいくつか種類がありますが、塗布にはドロマイト石灰が適しています。塗り壁材料でも使われ、剥がれにくい特長があります。



トライキル

ドロマイト

【ドロマイト系石灰の特徴】

- 粒子が細かく塗りやすい
- 水に溶けやすく、発熱しない
- 吸湿作用・結露防止作用
- 踏込み消毒槽にも使用可能

.....

【石灰乳の容量】

ポリバケツ等に

○ドロマイト系石灰 1 k g

○水 2 L を混合

2 0 k g 1 袋では 3 0－4 0 m² 塗付け可能

塗布の前に

洗浄・消毒・乾燥が衛生管理の基本です。まず舎内の汚れを念入りに落として、消毒剤の効果を最大にしましょう！

石灰乳の作り方

ドロマイト 1 k g と水約 2 L で石灰乳を作製します。1 L の石灰乳でおよそ 1 m² を塗ることができます。洗車ブラシやハケを使うか、ミキサー・動力噴霧器等の機械を使って塗布します。

作業時には刺激で目や喉を痛める恐れがあるので、マスクやゴーグル・手袋を着用しましょう。

900-1, 000℃で焼成してCO₂を放出揮散させた軽く多孔質のものである。そのことから吸湿・透湿・結露防止で呼吸性の壁として使用でき、防カビにも有効である。

水和反応が完全に行われており、体積膨張がなく、はく離が起きにくく、不燃・耐火・防火・有害ガスが発生しない。成分として含有している水酸化マグネシウムのゲルの作用により、水で練っただけで施工ができ、付着性が良い。

建築上塗り剤としても使用できるのは、きめが細かく細部まで浸透できるためで、塗付後の付着性に優れ、乾燥後には衣類にこすれても移りにくい。

水に溶かしても熱の発生は全く無いため、作業安全性が高い。(通常の生石灰は水と反応し沸騰、100℃近い高温になる)

●石灰のメッシュが細かいため、水に良く溶けキメの細かい石灰乳となる。(ノズル等への詰まりが少なく、作業効率が格段に向上)

●付着性が高いため、塗付後の持続性が良い。(通常の生石灰では付着性を混ぜるが、それでも付着性は弱い)

●畜舎屋根や外壁等に塗付するより、暑熱対策資材としても使用できます。(夏期の畜舎内温度低減効果の実証済み)

●金属に対する腐食性を抑える効果もあるため、畜舎の鉄柵・配管などへの塗付も心配ありません。

塗布は薄塗りで

子牛が舐める可能性のある場所全てにくまなく塗りましょう。裏側、下側、角、溝などが見落としがちなポイントです。

ひび割れや剥がれを防ぐために薄塗りを心がけ、塗布後にしっかり乾燥させてから使用します。乾燥後に子牛が多少舐めても害はありません。

クリプトスポリジウムに

消毒剤のオルソ剤(トライキル・タナベゾール等)と消石灰乳の組合せはクリプトスポリジウムにも有効とされています。(例) 水 1 L にトライキル約 1. 2 5 m L、消石灰 1 0 0 g を混合

大切な子牛が病気せず快適に過ごせるよう、ぜひ取り組んでみてください。